



亀田いくお県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

来年度の早い時期に創設へ

実入パイパスの新規採択を国へ要望

■鴨川市特集■ 2月県議会一般質問



2月県議会で一般質問を展開する亀田郁夫県議

国・県・市の太いパイプで夢を実現！と、地域の課題を掲げ、鴨川市から県議会に活躍の場を移している亀田郁夫(かめだ・いくお)県議は、2月県議会でも再び一般質問に登壇しました。亀田県議は、昨年9月の質問を継続する形で、引き続きCO₂吸収量認定制度の早期創設を求めたところ、県は「来年度のできるだけ早い時期に創設したい」と、初めて具体的な時期を明示しました。他にも実入パイパスの今後の進め方など道路問題をはじめ、森林環境税の具休策などを取り上げ、県南地域の振興を強く求めました。2月26日に閉会した2月県議会での亀田県議の質疑を1、2面で特集します。

亀田議員 CO₂吸収量認定制度の来年度創設は可能か。現状での進捗状況はどうか。

農林水産部長 CO₂吸収量認定制度については、企業等の森林整備活動へのインセンティブとして効果が期待されることであり、来年度のできるだけ早い時期の制度創設に向け、検討を重ねているところです。

認定の対象とする森林期間、吸収量の計算方法などについては、ほぼ検討を終えており、二月からは県と協定している「法人の森」

鴨川北部道路早期着手へ

亀田議員 国道128号実入パイパスの今後の進め方はどうか。

県土整備部長 鴨川市天津地先から内浦地先に至る国道128号は、老朽化の激しい実入トンネルや急峻なノリ面の区間が連続していることから、これらの区間を迂回する延長約〇・九キロの実入パイパスを計画しています。今年度は、調査・測量及び地元説明会などを実施しており、今後はルート・構造等を具体的に決定していくことになっています。また現在、補助事業の新規採択を国へ働きかけているところで、できるだけ

亀田議員 鴨川北部道路と国道128号とのアクセス整備について、今後どのように取り組んでいくか。

県土整備部長 現在、鴨川北部道路に接続する市道八幡東線の整備が、平成二十一年度の完成を目標に進められています。この市道の東側、国道128号までの延長約〇・八キロ区間について、今後、地質調査や測量等を実施し、鴨川市の協力を得ながらルート・構造等を検討し、早期に整備着手してまいりたいと考えています。

県全体で十三カ所の中から四カ所を選定し、現地調査等の試行を行い、その結果を踏まえて制度全体の枠組みを固めてまいります。

要望 二月から法人の森四カ所を選定して制度全体の枠組みを固めていくとの答弁でしたが、この内容が、使い勝手がよく魅力あるものにしてもらいたい。そして、それを使いながら、地域の活性化に役立てていきたいと思っております。

で、四カ所が終わったら一日も早く県内どこでも使えるような認定制度にしていただきたい。

県全体で十三カ所の中から四カ所を選定し、現地調査等の試行を行い、その結果を踏まえて制度全体の枠組みを固めてまいります。

亀田いくお・PROFILE

- 経歴○
- 昭和27年 2月 鴨川市生まれ
 - 昭和51年 3月 立正大学経営学部卒
 - 昭和56年10月 亀田総合病院理事
 - 昭和60年 9月 ケイティエス代表取締役
 - 平成16年 3月 鴨川市議会議員初当選
 - 平成19年 4月 県議会議員初当選
- 現職○
- 県議会 環境生活警察常任委員会副委員長
 - 千葉県 環境審議会委員
 - 自民党県連 政務調査会審議員

CO₂吸収量 認証制度

「健康と観光」を結んだ新しいまちづくり

県政や鴨川市について、お気軽にご相談ください。

亀田いくお 県事務所

〒296-0041 鴨川市東町665
 TEL.04-7099-0190
 FAX.04-7099-0191
 http://www.kameda190.com

森林環境税は税収17億円規模



議場の再質問で執行部に迫る亀田郁夫県議

用途は森林の再生や保全

亀田議員 これまでの森林環境税の検討の中で、税収規模や用途はどのように考えられているのか。

総務部長 わゆる森林環境税については、市内において関係部局を含め、さまざまな観点から検討を進めております。税収規模は、他県と同様に、個人については五百円、法人については法人県民税均等割の5%相当額で課税した

場合、十七億円程度と試算されます。

また、用途につきましては、本県の地域特性を踏まえ、森林の再生や整備、都市のみどりの保全あるいは交流の場づくりなど、幅広くとらえていく必要があると考えています。

亀田議員 現在、県民の意見を聞いているとのことだが、今後の導入に向けた対応をどのように考えているのか。

総務部長 現在実施している「県政に関する世論調査」では、森林などみどり

循環型地域医療連携システムを構築

亀田議員 循環型地域医療連携システムの構築に關連し、初期診療を行う「かかりつけ医」を中心とした仕組みづくりについて、県は、医師会、病院会等の各種医療団体との意見交換は、どのように取り組んでいるのか。

堂本知事 ずいぶん時

の保全をテーマとして、森林の荒廃、みどりの減少などの課題への対応やその財源のあり方についてご意見を伺っています。

総務部長 さきほどもお答えしたように、県議会や

を伺っているところですが、この調査結果を踏まえて、今後の進め方を検討してまいります。検討に当たっては、議会や県民の皆様のご意見を十分伺ってまいりたいと考えております。

亀田議員 森林環境税は、導入を前提として強い姿勢でいくのか伺いた

「医療連携パス」は4月から

亀田議員 「医療連携パス」の作成はこれまで進んでいるのか。作りっぱなしではなく、実際の運用状況を把握し、必要に応じて修正する仕組みについて、県はどのように考えているのか。

健康福祉部長 県は、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の四疾病について、県内のどの地域でも共用できる「地域医療連携パス」の構築に向けて、県医師会や県内の大学、地域の基幹病院等の専門家とともに取り組

「かかりつけ医」の役割が重要なポイントとなってきました。

このシステムでの「かかりつけ医」の役割については、全県レベルでは、県医師会や病院団体の代表などで構成する医療審議会において、また、地域レベルでも地区の医師会や病院長、市町村

医療現場はIT化不可欠

亀田議員 「地域医療連携パス」の運用で、企画が統一された電子カルテシステムによる医療情報ネットワークを検討すべきだが、県はどのように考えているのか。

健康福祉部長 現在、県医師会等との協働で作成を進めている「地域医療連携パス」は、紙ベースでも電子ベースでも運用できる内容を検討しています。実際の医療現場では、大きな病院から開業医までIT化の状況がそれぞれ異なることから、現時点では、具体的な仕様については、地域や各医療機関の判断に委ねるこ

合診療機能強化事業の実施を予定しております。このシステムにおける「かかりつけ医」の役割の充実に向け取り組んでまいります。

県はIT化を推進し、各医療機関の機能を最大限活用するために必要な資金を負担するなど、前向きに取り組んでいただくよう要望します。

市集 鴨川特

2月県議会一般質問 だれもが元気になる すこやか立国・鴨川

亀田いくお県議